

杉並区教育ビジョン

共に学び
共に支え
共に創る
杉並の教育

永福小学校の教育目標

自己の命を大切にするとともに他者の命を大切にし、常に自主的・創造的で、集団及び地域社会の一員としての自覚をもって社会に関わりながら、たくましく生きぬくことのできる児童の育成は「共に学び共に支え共に創る」教育の基礎となる。その実現のために、教育目標を次のとおり定め、全教育活動を通じて取り組む。

地域と共に創る学校を目指して、『 やさしく つよく 』

学校の現状

- 統合新校4年目 教職員は少しづつ交替
- 新一年生が4学級編制 学級増の傾向に注意
- 自分の考えをもち発信できる子の育成が課題
- 校務分掌改編2年目 新方式が機能し始める
- 保護者の中には子育てを支えていく必要も

基本的な考え方

- 『 繼承と発展 』
- 統合新校の経緯を尊重しながら、時代の変化にしなやかに対応する。
 - 統合新校の新たな校風と伝統は子どもたちが創る。

目指す児童像

- 「やさしく」
 - ・正しいことを判断する子
 - ・地域や社会につくす子
 - ・自分に自信をもてる子
- 「つよく」
 - ・努力する子
 - ・がまんする子
 - ・健康な体をつくる子

5つの大きな方向

1. 子どもたちを心豊かに成長させる教育活動を行う	2. 子どもたちが安全で安心できる学校生活を実現する	3. 子どもたちの力を伸ばせる教職員を育成する	4. 子どもたちを地域社会の輪と和の中で共育する	5. 子どもたちの活動を通して新たな校風を創造する
<ul style="list-style-type: none"> ↓ ・影絵劇、読み聞かせ、花いっぱい運動、こいのぼり、七夕飾り、お月見の会、餅つき、ラジオ体操、 ・ビオトープ等を活用したESDを考えられる環境学習 ・今年度は学芸会を実施 ・永福マラソン、長縄跳び ・日常的な運動機会を用意 ・小中一貫教育の充実、拡大知り合う→分かり合う 	<ul style="list-style-type: none"> ↓ ・校舎内外の美化・整備と施設・設備の点検を実施 ・危険回避能力を高める現実的な避難訓練を実施 ・スクールカウンセラーと連携した相談体制の充実 ・いじめ調査(3回)と体罰調査(1回)を実施 ・確実なアレルギー対策 ・地区班活動の活性化 ・町内会防災会が実施する防災訓練との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ↓ ・学び残し半減を目指す自ら考え表現し高め合う授業 ・区指導教授制度も活用し授業力向上を主眼に研究 ・児童の声なき声を聴き取れる心温かい教員の育成 ・ICT機器を日常的に活用し分かりやすい授業を実施 ・服務事故未然防止のため教員研修を実施 ・3年先の教員大量異動回避と若手育成が可能な人事 	<ul style="list-style-type: none"> ↓ ・C S、地域の会、P T Aと学校で大人の側が連携 ・保護者、PTAとの協力関係 ・学校の下請でなく双方で提案、協議できる支援本部 ・高三小、向陽中と小中一貫大塚ろう、永福学園と交流 ・商店街と連携し進路指導店見学→弟子入り体験→オータム出店→お仕事博 ・健全育成地区委との連携 ・地域行事への参加奨励 	<ul style="list-style-type: none"> ↓ ・一年中の挨拶運動は宿題 ・人と関わる力を育てる縦割り班の異年齢交流やクラス遊びを実施 ・原稿を見ないスピーチを子どもたちの中の伝統に ・規範意識や行動様式を指導「永福小学校スタンダード」「体育スタンダード」および「永福小学校の約束」を活用 ・自主的自発的に自律する校風を目指したい。

これらを通して子どもたちの力を伸ばしていく

組織運営の指針

学校だけではやっていけないことがある。先生一人ではできないことがある。地域だけではやっていけないことがある。

一緒にやると出来ることが増える、広がる、深まる、楽しくなる。そして、子どもたちが育っていく。

無理・無駄・無謀・無茶に流れぬよう気を付け、トータルバランスに配慮し、冷静に合理的に進める。

(1) 法令を遵守し、この道の専門家の誇りをもって、適正に勤務する。

- ① 不適切な指導に起因する信用失墜行為等の服務事故をゼロにするため、年6回の服務研修、年3回の人権研修と随時の情報提供を実施する。
- ② 個人情報の取扱いに関する校内規定の徹底を図り、個人情報流出事故の未然防止に努め、服務事故ゼロを最低目標にする。
- ③ 校務パソコンで学校運営情報と教育指導情報を一元的に管理し、校務の効率化を推進する。今年度、フォルダを整理する。
- ④ 会計事務担当者と教員とで連絡を密にして、教材費の公費負担等、学校予算を適正かつ計画的に執行するとともに、会計事故ゼロを期す。
- ⑤ 学校の先生の尊厳を、自らの努力で維持し向上させる。

(2) 各自が職分を果たし、その上で互いに協力し、課題を解決する。

- ① 適材適所の分掌では人事異動のたびに仕事内容の継承に困る。得手不得手に関係なく分掌し、チームで働き、各自の事務能力向上を期す。
- ② 主幹教諭1名と主任教諭11名は、視野広く進行管理と目標管理を行い、職分相応の校務分掌で経営に参画し、組織意思決定過程の徹底を図る。
- ③ 学年経営の多くを学年主任6人に託す。学年主任を中心に、学年のことはまず学年で相談し、情報を共有し、学級の枠を超えて指導にあたる。
- ④ 自己申告面接で、学習指導力、生活指導力、外部との連携・折衝力、学校運営力・組織貢献力を視点に助言し、資質向上を図る。
- ⑤ 積極的に授業研究に取り組み、自らの努力で授業力向上に努める。

(3) 副校長、主幹・主任教諭が要となり、若手教員の指導力を育成する。

- ① 先ずは自力解決に取り組ませ、安易に副校長に頼らせず、しかし一人で抱え込むことがないよう、必ず事前の相談または事後の報告をさせる。
- ② 経験4年迄の8名には、指導教授による研究授業を行うとともに、当事者のオンデマンド研修「けやき塾」を自ら企画調整させ実施する。
- ③ 学級経営に進歩の余地がある教員には、授業観察による指導に加え、授業づくりプラス児童との接し方を日常的なOJT研修で指導する。
- ④ 区・都・国の学力調査と体力調査の統計を活用する方法を指導し、実態から指導方法の指針や改善策を考える手法を体得させる。
- ⑤ 倦まず弛まず最後まで見届ける指導者側の忍耐と努力で、若手教員の育成に努める。

(4) 外部との連携・折衝力を高め、地域運営学校に勤務する教員としてのクオリティアップを図る。

- ① 保護者からの相談が理不尽でないなら相談を苦情と捉えず、「困った子の訴え」でなく「困っている子の訴え」と捉え、組織的に解決する。
- ② 地域社会で地域住民や保護者とのface to faceの関係を増やすため、地域行事活動に可能な限り参加し、協力する。
- ③ 3・11を忘れず、「学校は地域社会の一員であり防災拠点のひとつ」との考えから、地域の防災・防火・防犯に可能な限り貢献する。
- ④ 学校支援本部が無償ボランティアであることをよくわきまえ、円滑な関係づくりに努める。
- ⑤ 地域連携や小中一貫教育に加え、都立大塚ろう学校永福分教室及び都立永福学園との交流活動を通して、広い視野の獲得に努める。

(以上)